

お口の健康

第8回生まれる前から始める虫歯予防

虫歯は、虫歯菌が砂糖を分解する際にできる酸が歯を溶かすために起こります。しかし、生まれたばかりの赤ちゃんの口中は、無菌状態で虫歯菌も存在しません。虫歯菌は家族から感染すると言われています。この虫歯菌の感染が遅いほど、虫歯になりにくくなると言われています。

また、子供の虫歯菌の割合は歯の生え始めから3才の間でほぼ固定されるそうです。この間に母親もしくは一番近い人の虫歯菌の割合を低くしておけば、その子供は生涯にわたり虫歯になりにくくなるそうです。

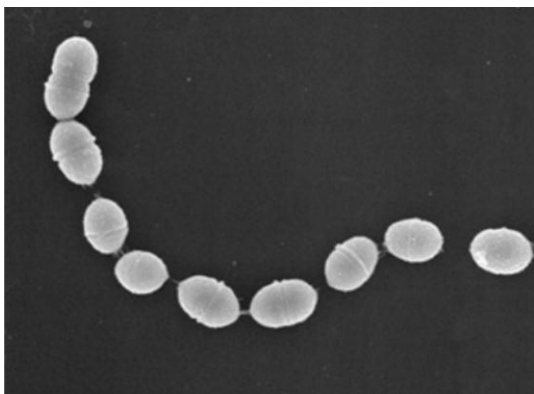
ところで女性が歯を悪くする時期を知っていますか？

妊娠出産子育ての時期と介護（親やご主人の）の時期です。この頃の本音は「忙しくて自分のことなどかまっていられない」です。それにストレスによる唾液の分泌低下、食生活や生活習慣の乱れも加わります。それでいて歯が悪くなっても歯医者には行かない、行けない、でますます歯が悪くなっていきます。しかし結局のところ、そういった母親の子供には虫歯が多いのが現状です。それは、食生活、生活習慣から考え方まで子供に受け継がれるからです。そのため、虫歯菌から自分の歯を守れない母親の子供は虫歯が多く、自分の歯を守る母親の子供は虫歯が少ないのが現状です。



虫歯菌感染の原因の大半は、虫歯の有る母親が食べ物を噛んで子供に与えたり、親子の箸やスプーンの共有だとされています。そのため、出産前後の母親の口の中の状態を改善することが、子供の虫歯を予防する一つの手段になると考えられています。

現在、秋田県の1歳半児の虫歯率は、全国でも悪い方で、また湯沢市雄勝郡は秋田県内でも悪い方に位置しています。子供の虫歯予防のためには、まずご自分の虫歯予防から始めましょう。子供は虫歯予防の尚、妊娠中の方は、市町村で実施している無料の妊婦歯科検診を受診できます。是非、活用しましょう。



ミュータンス菌

箸やスプーンの共有で、母から子への感染が起きます

湯沢市・雄勝郡
歯科医師会

ホームページ：
<http://www.yutopia.or.jp/~yoda/>